

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	平塚八重咲町計画	階数	地下1 地上3階
建設地	平塚市八重咲町26-7	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,600 時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年7月 予定	評価の実施日	2016年5月20日
敷地面積	1,971 m ²	作成者	アルステデザインアソシエーツ級建築士事務所
建築面積	1,197 m ²	確認日	2016年5月21日
延床面積	3,761 m ²	確認者	アルステデザインアソシエーツ級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 建物の形、コアと各諸室の配置、断面計画を極力シンプルにすることにより、建設材料的にもエネルギー的にも無駄の少ない計画とした。		0
Q1 室内環境 事務所であることから、将来的にもレイアウトの自由が確保されるように、なるべく大きな長方形の平面プランとなるように計画した。ガラスにはLowEガラスを用いて冷暖房負荷が減るように計画した。また館内は禁煙として、外部に喫煙スペースを設け館内には一室だけ喫煙ルームを設けて分煙とした。	Q2 サービス性能 各階をOAフロアとし、将来的にもレイアウトの自由を確保した。また一人当たりの執務スペースは12m ² 以上とし、天井の高さは2.8mとした。カフェテリア、ライブラリーコート等リフレッシュスペースは執務スペースの1%以上とした。内装計画は明るく快適な事務所スペースとなるように、現在の執務スペースを踏まえて、事業主も参加し計画をしている。	Q3 室外環境(敷地内) 道路に面した敷地の部分をなるべく緑化し、建物内からも街並みにもっとも良い環境を目指した。現在の執務スペース利用者からのヒヤリングを行い、建物利用者も参加してプラン計画を行っている。また近隣説明会を行い、近隣の理解を深め、またご要望をうかがっている。駐車場の出入口には平塚警察署と協議し、管制灯を設置し安全対策を行っている。
LR1 エネルギー モデル建物法によるBEImの値が0.95以下となる計画とした。	LR2 資源・マテリアル リサイクル促進として建物はRC造とし、外壁は塗装と乾式工法とし容易に分別可能とした。雨水は敷地内の植栽ゾーンを流れるようにし、利用を回り、また敷地外への雨水流出を抑える計画とした。	LR3 敷地外環境 雨水は敷地内の植栽ゾーンを流れるようにし、利用を回り、また敷地外への雨水流出は指導された規模を満たし、雨水浸透などを任意に行い抑える計画とした。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される